「東名ジャンクション（仮称）」殿山横穴墓群に関する活用検討会

第１回　議事概要

１　日時及び場所

日時：平成 28 年 7 月 14 日（木）18：00～20：00

場所：東京外かく環状国道事務所　喜多見 7 丁目常設会場

２　出席委員（敬称略）

有 識 者：中野恒明、阿部伸太、小泉玲子、砂金伸治

区　　民：中川清史、荒川和茂、八木孝夫

世田谷区：桐山孝義、青山雅夫、工藤郁淳

事 業 者：佐藤眞平、安原正幸、岩本英將

３　傍聴者数

12 名

４　会議の概要

（1）検討会の運営について

検討会の設立趣意書について、事務局より説明した。

検討会の規約について、事務局より説明し、規約が原案どおり了承された。

規約に基づく座長及び副座長の選任について、座長に中野委員、副座長に阿部委員がそれぞれ選任された。

検討会のスケジュール等について、事務局より説明した。

（2）殿山横穴墓群に関する状況について

資料 5 に基づき、殿山横穴墓群の現状と東名ジャンクション（仮称）との位置関係、発掘調査の概要等について、事務局より説明した。主な発言は以下のとおり。

○殿山横穴墓群も下野田遺跡も外環事業で発掘されたものであるので、関連性があるなら、活用について、ともに考えるべきである。

○現在、発掘調査が行われている下野田遺跡の集落跡と殿山横穴墓群との関係については、下野田遺跡の発掘調査は完了していないが殿山横穴墓群と同時期である 6 世紀末から 7 世紀の集落跡は発掘されておらず、4～5 世紀、8 世紀及び 10 世紀の集落跡と考えられている。そのため、下野田遺跡と殿山横穴墓群は、直接関連する集落跡ではないと思われる。

（3）議事について

次第に基づき「検討の方向性」について、議論がなされた。主な発言は以下のとおり。

○現地での横穴墓の保存については、外環道のＨランプが縦断的に東名高速をオーバーパスする計画だったが、地域課題検討会（地域との話し合い、ＰＩ）によって、アンダーパスにした経緯を踏まえると、横穴墓を保存するために計画を戻すことは現実的でない。仮に、平面的に避けようとした場合は、新たな追加買収が必要になり、地元の方々に新たな負担を強いるようなことになるので、現実的ではない。

○国分寺崖線からの眺望や周辺に対する騒音、排気ガス等の問題を考えると、やはりアンダーパスにして良かった。また、これまでのプロセスの中で今の計画になっているので、それを踏まえ、検討する方向だという感触を持っている。

○保存は難しいということと事業者が取得した殿山横穴墓群の 3Dデータや記録をどのように活用するかという意見も結構出ているので、検討の方向性としては、展示や活用の方法だと思う。

○殿山横穴墓群の周辺で横穴墓以外の遺跡が発見される可能性については、現在の工事区域内では調査が完了しているが、工事区域外の崖線部分においては可能性がある。

○取得した 3Dデータを活用して復元するならば、現物の土を再利用してはどうかとの意見があったが、土丹の性質として水分を失うと強度がなくなり、殆どぼろぼろになってしまう。経験上、水を混ぜれば良いということではない。

○現物の土を再利用しての復元は難しいが、ＦＲＰ等の素材を利用すれば形の復元はできるということだが、誰が費用を負担するのか、断面図からすると法面になる外環事業地内のどこに移設するのか今後の課題となる。

○レプリカの製作や遺構などを一部切り取って博物館等に保管・保存するという場合もあるが、横穴墓は崖面のあの位置、あの高さに掘り込んで作られていたことに意味のある遺跡である。仮に保存するのであれば、崖ごと切り取ってどこかに残さない限り、おそらく利用価値がなく、教育的にも学術的にもあまり意味がない。また、費用やスペースなどを考えると、図面や写真などで十分代替できる。

以上を踏まえ、横穴墓そのものの保存、現物の土を再利用しての復元及び外環事業地内へ移設は困難であることから、検討の方向性として、活用方法について議論することとされた。主な発言は以下のとおり。

○出土品も公表するべきだが、仮に 3Dデータを使い体感できるような施設ができる場合に、そうした施設に出土品の現物を置くのは、セキュリティ上適当ではないので、レプリカを作り展示するのが良い。

○横穴墓や古墳などは残されたとしても、中に入れるものはごく僅かであり、世田谷区内で保存されている等々力の 3 号横穴もガラスで塞がれた入口から中を覗くだけである。教育的な利用方法を考えると、3Dデータを活用して器材を使えばまるでその中にいるような体感ができるという利用の仕方が現実的であるし、体感できる点において何より魅力的である。

○国分寺崖線の中における横穴墓群として視点を広げて見ると、教育的・文化的価

値という観点では、資料の中にあるような写真などをつなぎ合わせ、背景などの解説を付け加えることで、それを見た人がそこに思いを馳せることが、教育的見地からの活用である。
また、情報化の時代であるからＩＣＴ（情報通信技術）を活用し、インターネットミュージアムという視点の中で、うまく取り込んでいけると良い。
○外環事業は、地元の方が自分の先祖伝来の土地を提供して進められるわけだから、そこにあった物を、地元で展示できると良い。
○地元で展示するという点は同じ意見である。郷土資料館ではなく、発掘現場の近く、例えば喜多見小学校、上部利用で作られる公園内などが良い。
可能性のある場所を事務局に次回、提供していただき、議論できれば良い。ただし、作った公共施設の維持管理が全国的に課題になっている。
○周辺街づくりや上部空間等の検討の一環として、展示施設を設け、地域の小学校の生徒たちに見せることができると、本当に素晴らしいものになる。
○3Dで作るのとは別の意味で、本物が映像として残されているから、映像は活用して残していくべきだ。
○横穴墓群周辺の地層や地質などの情報に当時の文化面の解説を加えれば、子どもたちの教育的興味だけでなく、学校教育とは少し違った観点での幅も出てくる。
○地盤に興味がある方もいるはず。地層がかなり複雑になっている画像などは寧ろ小学生に見せたい。
○勾玉や刀などの副葬品が殿山横穴墓群だけではなく、他の遺跡でも見つかっていることについて、展示と共に学問的解説があると教育的な価値も上がる。そうしたものを集約し、比較して、説明される博物館などのような場所があると良い。
○横穴墓群や出土品が区内や日本全体でどのような位置付けがあるかを幅広く、解釈を加えて、地域の皆さんが簡単に手に取れるような活用の仕方が１つのキーワードになる。
○世田谷の国分寺崖線だけで 144 基出ていることから、歴史的な部分も比較対照した解説が地元にあると良い。
○古墳時代の横穴墓群があったところに近代的な道路やジャンクションが新たにできるというひとつの歴史を後世に残す方法として、仮称となっているジャンクションの名称に殿山横穴墓群を使うのも良い。
○今回のように道路事業で遺跡が発掘された例は結構多いと思うので、全国でどれくらい活用事例があるか、事務局に次回まで調べていただき、議論できると良い。
○地下鉄の市ヶ谷駅での工事において、江戸城の石垣が出土したため、石垣の一部を駅の構内の別の場所に復元をして、当時の切絵図と現在の地図を重ねて位置を示し、学識者のコメントをパネルにして展示しているケースもある。また、二条駅の工事で発掘された物を駅の構内の展示スペースで展示しているケースもある。箱物がないのが外環事業の特徴だが、今回の検討会でのヒントとしては、発掘された物を何らかの形で展示している事例は多い。
○横穴墓は崖面をくり貫いて作られる物であるので、崖面が非常に発達している国

分寺崖線において多く作られてきたことは、地形的にも当然である。一般の方に、郷土の歴史に興味や関心を持ってもらうため、そうしたことの意味や学術的な比較研究などを噛み砕いて、後世に伝えるための使い方をすれば、今回の遺跡はなくなってはしまうが、価値のあるものになる。

○殿山横穴墓群を作った集落については、現況、想定されている集落は、野川の反対側にある喜多見陣屋遺跡、清水遺跡などに同時期集落があり、非常に有力な集落であったことからそことの関係で捉えている。また、墓地としての選定条件については、当時の時代からすれば、通常は、利用しづらい土地を墓地にしたと考えられる。

○喜多見や国分寺崖線の歴史を語るうえでは、殿山横穴墓群を作った集落や墓地としての選定条件なども含め展示や情報発信が必要である。

○町おこしや街づくりに繋げられるよう、ハード面や教育面だけに着目するのではなく、例えば横穴墓せんべいなどの活用方法もある。

○外環事業により、町が分断され、どうやって復活し直すかということも課題としてはある。

○例えば小学校 4 年生くらいの地域を知る教育の時間で、横穴墓群を子どもに分かりやすいように解説するといったソフト面での活用もある。

また、等身大の現物の復元は難しいということだが、写真であればプレートへの焼付けや外環のリーフレット等に副次的な成果としてメッセージの一コマを入れると良い。

○写真なども区や外環事業者のホームページで発信するのも良い。全国の色々な人が見られるし、費用は余りかからない。寧ろ事業に対する理解が深まり、地域の方が誇りを持てれば郷土への愛着や小学生の良い勉強にもなる。

○最近、ここに農業公園ができた。農業の復活というか、区内で農業を発信されようとしている時なので、横穴墓とうまく繋げて町おこしをと感じている。

○この検討会の資料等もホームページで公開されるのであれば、活用のアイディアを募集すると良い。

○都市緑地計画学としてみどりの街づくりの観点から考えると、上部利用空間は、例えば、次大夫堀公園や等々力渓谷の横穴墓のように、分断されてしまう地域を繋げる空間になると良い。その中で、副葬品等をこの場所でうまく展示できるような仕掛けがあると、地域が非常に力を持ってくる。例えば横穴墓をモチーフにした壁面や空間作りをすれば、非常に魅力的なオープンスペース、みどりの空間になる。

それから、維持管理を考えると、例えば豊島区立南池袋公園のように、利用料ではなく収益をあげる仕掛けをセットで考えるのも大事になる。その際に、様々なセクションのお金を使いながらやっていくと、非常に質の高い空間になる。そうすることで、子どもたちの地域に対する愛着やプライドにも繋がる。

○いわゆる箱物は新しく作ると当然お金がかかるのだから、外環事業で建設が決まっている約 30mの換気塔に横穴墓に関連するデザインや構造を取り入れれば、

新たにお金をかける必要がない。

○首都高速の大橋ジャンクションにある天空庭園は、作った構造物の上部がいつの間にか観光地になった。そういった発想を検討する価値がある。

○ＩＣＴ（情報通信技術）の世界では大きさの感覚を伝えることには限界がある。立体模型など何か建設することに限らず、横穴墓の断面図を周辺施設の壁面等に表示すれば、大きさの感覚は伝えられる。そうした工夫も必要だ。

○実際、シアターで立体眼鏡をかけて立体画像を見た際、感激したことがある。綿密に調査された3Dデータを利用して、バーチャルな世界で体験する活用方法は、費用の面で課題があるが、教育的な観点から十分可能性がある。

○このジャンクション内に横穴墓があったとわかるようにランプに15基の横穴墓を表示できると良い。そうすれば名物なジャンクションになり見物人が来る気もする。

○屋外でもタイルにプリントできる技術がある。屋外展示なら維持費もかからないので、展示の仕方としては良い。

○このジャンクションは西から来た車にとって東京のゲートウェイになるという観点からすれば、日本の高速道路網の中で非常に大事なものである。その意味では外環事業において横穴墓群を有効に活用することは、外環事業者にとっても非常に発信力のある事業となる。

また、東京の都市の国際競争力を高めるという点で、2020 年に向けて都市インフラを整備する際に、それ以降のスタンダードになるよう、外環事業の進め方を考えることは大事である。

○換気塔は最新の設備である一方、脈々と受け継がれてきた伝統のような物がある中で、それらを絡めて展示するような発想は重要である。その際に土の性状などの要素を入れると、教育的な活用という点ではなお良い。

○外環事業は技術的に価値のある工事なので、地盤データなど計測したデータやトンネルを掘る技術などももう少し市民にアピールすると良い。1,500 年前の歴史と今の技術が交差する場所として、関連施設への表示や記念碑などによって、遺跡だけでなく現代の土木史、土木技術をアピールするアイディアを事業者から出すと良い。

以上の発言を踏まえ、第2回以降でとりまとめに向けて議論することとされた。

（4）その他

第2回（11月中旬予定）及び第3回（1月下旬予定）の日程について、事務局より連絡した。